

ドキュメント

# 1984年キューバ経済

佐々木茂子

## はじめに

1984年7月19日パリにおいてキューバと債権国政府の間で債務の一部リスケジュールの合意をみたが、これに続いて、さらに、キューバ国立銀行は1985年に返済期限のくる債務についてそのリスケジュールを債権国および民間銀行団に要求した。本書は、この要求の理由と必要性を述べたもので、キューバ国立銀行と国家統計委員会刊行の『季刊経済報告』(Cuba Quarterly Economic Report)を補完するものである。

1982年11月にキューバは債権国に対して83~85年の国際収支の改善計画を提出したが、本書はこの計画の達成状況を踏まえながら貿易、国際収支等の対外経済状況を中心に近年の経済動向を86~90年の新5カ年計画(作成中)との関連から述べたものである。

以下はキューバ経済の現状にかかわる部分について経済統計を中心に紹介するものである。

## 1 経済概況

キューバの社会総生産の成長率は、対前年比で1983年5.6%、84年7.4%と好調に推移し、総額で84年には261億2100万ペソ(295億1673万USドル)に達した。この総生産の43.4%は工業部門によるものである(第1表)。その中心となる砂糖生産は、1983年の746万トンから84年には778万トンへと拡大した。また、労働生産性の向上や石油にかわるサトウキビ燃料の使用等により生産効率も増大している(第2表)。しかし主要鉱産物であるニッケルおよびコバルト生産については、設備の近代化への切り換え時にあつたこともあり、前年より15.4%の低下を示している。

農業部門の生産は、平均の伸び率を下回り5.1%の上昇に留まった。これは主に、サトウキビ生産が天候不順により計画目標を下回ったことによる。他の作物については対前年比タバコ48.2%、コーヒー25.0%、バナナ25.3%、米7.2%、野菜12.1%、豚9.8%等の生産増加を示した。これに反して柑橘類の生産は、早ばつ、化学肥料不足等の影響により前年より8.1%減少し、畜産についても早ばつの影響でミルク1.2%、牛肉0.3%の生産低下を招いている。

社会総生産のうち最も高い伸びを示したのは建設部門である。居住している住宅の所有権を認め、所有の

第1表 部門別社会総生産(生産者価格,1983年価格)  
(単位:100万ペソ)

	1983	1984	成長率(%)
総計	24,310.0	26,121.0	7.4
工業	10,574.7	11,335.2	7.2
建設業	1,988.8	2,310.6	16.2
農牧業	3,361.0	3,533.6	5.1
林業	107.6	115.1	7.0
運輸	1,671.6	1,797.1	7.5
通信	204.9	226.7	10.6
商業	6,272.5	6,656.1	6.1
その他	128.9	146.6	13.7

第2表 砂糖の需給バランス(粗糖ベース)

	1983	1984
年初在庫量	627,607	617,311
生産量	7,460,225	7,783,409
消費量	678,428	727,941
輸出货量	6,792,093	7,016,510
年末在庫量	617,311	656,269

## ●ドキュメント

促進措置を定めた住宅法の成立等の影響により、工事は前年より16.2%増となった。

こうした生産活動の増大を一層促進していくため、政府は輸出の増大を図る重点投資や経済的インセンティブを高める種々の対策を講じている。1984年における投資額は前年より14%増えて約39億ペソ（約44億USドル）となっている。砂糖や柑橘類、ニッケル、合板、タイヤ再生等の輸出品の生産設備の拡大・更新および輸入代替産業の育成を重点とし、また投資効率を高めるため、企業の直接投資を重視する方向へと転換してきている。この結果、1981年には政府投資が99%を占めていたが、85年には68%まで低下し、か

わって企業の直接投資の割合は1%から32%に上昇している。経済的インセンティブを高めるものとして、労働者へのボーナスや企業への利益還元を図るシステムやエネルギー消費の抑制に対するボーナス支給等を計画している。

国際収支の改善を促す観光業の発展については、1984年の観光客は前年より20%増の約20万人に達した。この84%は市場経済諸国からの観光客であり、これに伴い観光収入も飛躍的に増大した。キューバ政府は各国におけるキャンペーン活動やインフォメーションオフィス開設等の振興策をとっている。

## 2 所得・財政等

1984年の国民の貨幣所得は賃金やボーナス、プレミアムの増加により前年より8.2%上昇し、総所得の80%を占めるに至っている。支出については前年より6.8%の拡大を示したが、このなかで財貨購入6.6%増、ホテル・レストランサービス支出8.1%増、交通

第3表 地域別貿易額 (単位：100万ペソ)

	1983	シェア (%)	1984	シェア (%)	前年比 (%)
総額	11,740.4		12,669.3		107.9
輸出	5,522.7		5,462.1		98.9
輸入	6,217.7		7,207.2		115.9
収支	-695.0		-1,745.1		251.1
社会主義諸国					
総額	10,157.0	86.5	10,951.1	86.4	107.8
輸出	4,753.9	86.1	4,892.8	89.6	102.9
輸入	5,403.1	86.9	6,058.3	84.1	112.1
収支	-649.2		-1,165.5		179.5
市場経済諸国					
総額	1,583.4	13.5	1,718.2	13.6	108.5
輸出	768.8	13.9	569.3	10.4	74.1
輸入	814.6	13.1	1,148.9	15.9	141.0
収支	-45.8		-579.6		1,265.5

(注) 輸出はFOB, 輸入はCIF。

第4表 1983~85年輸出(交換可能通貨ベース) (単位：100万ペソ)

	1983~85 計画	1983~85 実績	差額
砂糖	1,253.9	751.5	-502.4
その他	1,871.5	1,404.4	-467.1
燃料再輸出	682.1	1,409.9	727.8
合計	3,807.5	3,565.8	-241.7

第5表 非砂糖製品輸出

(単位：100万ペソ)

非砂糖製品輸出	計 画			実 績			差 額		
	1983	1984	1985	1983	1984*	1985**	1983	1984	1985
タバコ	121.7	141.0	145.0	74.0	46.2	98.3	-47.7	-94.8	-46.7
水産物	133.7	140.5	147.0	93.8	102.6	91.0	-39.9	-37.9	-56.0
ニッケル	70.0	90.0	90.0	35.4	38.1	39.0	-34.6	-51.9	-51.0
コーヒー	37.0	45.3	45.3	39.5	17.9	20.9	2.5	-27.4	-24.4
その他	213.8	222.1	229.6	230.3	196.5	280.9	16.5	-25.6	51.3
小計	575.7	638.9	656.9	473.0	401.3	530.1	-102.7	-237.6	-126.8
燃料再輸出	284.6	219.2	178.3	497.7	484.4	427.8	213.1	265.2	249.5
総計	860.3	858.1	835.2	970.7	885.7	957.9	110.4	27.6	122.7

(注) \* 暫定値。 \*\* 推定値。

サービス支出8.5%増が支出拡大の主な要因となった。消費物資の供給は配給と自由市場の二重制となっているが、配給によるものは次第に低下し、国民総支出の26%を占めるにすぎない。自由市場における販売は700以上にのぼる店舗を通じて行なわれるが、1983年には総小売販売額の14%を扱うまでに成長してきた。また収入の増大に伴い国民の手持資金も増加し、増加額の半分が銀行預金に振り向けられた。

一方、1984年の国家予算については、国営企業の自主性の拡大等国家管理の分散化が進められつつあることにより、歳入が前年より4.2%低下し116億1560万ペソ(約131億USドル)となった。これは企業の直接投資が進められたことにより歳出総額の33%を占める生産部門への支出が対前年比で18%削減されたためである。歳出に大きな割合を占めるのは、この他、教育・保健21%、文化・科学技術16%、国防・治安13%などでいずれも前年より増加し、特に住宅・コミュニティサービスへの支払は高い増加をみせている。

第6表 輸入構成(交換可能通貨ベース)(単位:100万ペソ)

	1983		1984		差額
		%		%	
消費財	55.3	7	68.3	7	13.0
中間財	577.3	73	649.5	68	72.2
資本財	160.1	20	244.4	25	84.3
総計	792.7	100	962.2	100	169.5

### 3 貿易

1984年の貿易額は輸出入合わせて対前年比7.9%拡大し、総額で126億6930万ペソ(約143億USドル)となった。このうち輸出はやや減少し、輸入が増大した結果17億4510万ペソ(約20億USドル)の輸入超過となった。貿易相手国については総額の86%が社会主義諸国であり、市場経済諸国との貿易は14%にすぎない。特に市場経済諸国への輸出は交易条件が悪化したため前年比26%の減少となった(第3表)。

交換可能通貨ベースで輸出品目別にみると1983~85年で砂糖が総額の21%、非砂糖製品が39%、再輸出燃料が40%を占めた(第4表)。

1982年に始まった砂糖の国際価格の大幅な下落は砂糖輸出に大きく依存するキューバ経済に深刻な影響を与えている。1984年には実質価格では30年代を下回る水準で、生産コストを割るまでになったため、輸出をすればするほど赤字が増大するという悪循環に陥った。こうしたなかでソ連を中心とする社会主義諸国はキューバ経済の安定を図る目的から国際価格の数倍で砂糖購入を進めてきた。その結果、市場経済諸国への輸出は低下している。

非砂糖製品については、水産物、タバコ、ニッケル、コーヒー等が主な輸出品目となっているが、天候不順や病害の発生による農産物の生産減少、市場経済諸国

第7表 国際収支計画と実績(交換可能通貨ベース)

(単位:100万ペソ)

	計 画			実 績			差 額		
	1983	1984	1985	1983	1984*	1985**	1983	1984	1985
A. 経常収支	-30.1	-36.1	78.3	262.7	-206.9	-152.2	292.8	-170.8	-230.5
(1)商品・サービス収支	-30.5	-37.7	75.8	262.0	-216.8	-150.9	292.5	-179.1	-226.7
商品貿易収支	307.3	307.3	379.7	441.2	72.5	96.2	133.9	-234.8	-283.5
輸出	1,182.7	1,272.1	1,352.7	1,233.9	1,135.7	1,196.2	51.2	-136.4	-156.5
輸入	-875.4	-964.8	-973.0	-792.7	-1,063.2	-1,100.0	82.7	-98.4	-127.0
サービス収支	-337.8	-345.0	-303.9	-179.2	-289.3	-247.1	158.6	55.7	56.8
(2)移 転 収 支	0.4	1.6	2.5	0.7	9.9	-1.3	0.3	8.3	-3.8
B. 資本収支	30.1	36.1	-78.3	-262.7	206.9	152.2	-292.8	170.8	230.5
(1)長・短期資本	107.7	66.1	41.7	-73.6	101.3	161.6	-181.3	35.2	119.9
長期収支	206.9	81.0	57.4	93.3	116.7	265.7	-113.6	35.7	208.3
短期収支	-99.2	-14.9	-15.7	-166.9	-15.4	-104.1	-67.7	-0.5	-88.4
(2)そ の 他	-77.6	-30.0	-120.0	-189.1	105.6	-9.4	-111.5	135.6	110.6

(注) \*暫定値。\*\*推定値。

## ●ドキュメント

における保護政策の実施等の理由から輸出は低迷状態にある(第5表)。

これら砂糖および非砂糖輸出における収入不足は、燃料の再輸出により補われてきた(第4表)。キューバが必要とする燃料のほぼ全量はソ連により低価格で供給されているが、この消費を節約することによって再輸出を図り貿易収入を得ている。キューバは、燃料輸入に対応するソ連への砂糖輸出を確保するため、不足分の砂糖を国際市場より購入しているが、この額は1985年において、1億ペソに達した。

砂糖を除く輸入は年々増加し、1984年には交換可能通貨ベースで9億6220万ペソ(約11億USドル)となった。資本財・中間財の輸入は総額の93%を占めている(第6表)。

### 4 国際収支

経常収支は、交換可能通貨ベースにおいて、1983年2億6270万ペソ(3億1520万USドル)の黒字であったが、84年には貿易収支の悪化を反映して2億690万ペソ(2億4000万USドル)の赤字を記録し、85年も赤字幅は縮小するものなお1億5220万ペソの赤字

第8表 外貨準備内訳 (単位:100万ペソ)

	1983	1984	差額
金・貴金属	13.5	13.5	-
現金・外国銀行預金 (交換可能通貨)	271.4	165.8	-105.6
小計	284.9	179.3	-105.6
外国銀行預金 (譲渡可能ルーブル)	47.3	83.5	36.2
	332.2	262.8	-69.4

第9表 対外債務(交換可能通貨ベース)

(単位:100万ペソ)

	1979	1980	1981	1982	1983	1984*
債務総額	3,267.3	3,226.8	3,169.6	2,668.7	2,789.7	3,032.5
2国間公的債務	1,279.9	1,353.6	1,293.7	1,275.8	1,332.5	1,526.4
多国間公的債務	-	7.9	15.2	18.2	25.0	20.4
サプライヤーズ・クレジット	33.2	27.0	33.4	46.8	96.7	221.2
金融機関	1,952.6	1,837.1	1,826.4	1,327.3	1,334.9	1,264.4
その他	1.6	1.2	0.9	0.7	0.7	0.1

\*暫定値。

が見込まれている(第7表)。この間、燃料の再輸出が大きな要因となって貿易収支は黒字を維持してきたが、サービス収支は大幅な赤字となっており、経常収支悪化の要因となった。観光客の増加による収入の増大、加えて自国船の利用による運賃支出の削減などによりサービス収支の改善が進んだが、金利支払い等が高水準にあるため、なお赤字となっている。

外貨準備高は譲渡可能ルーブル分を除くと1984年には前年より1億560万ペソの減少を示し、1億7930万ペソ(2億260万USドル)となった(第8表)。

### 5 対外債務

1984年末には交換可能通貨ベースによるキューバの対外債務は、対81年比6%減の30億3250万ペソ(34億2673万USドル)となった(第9表)。これは他のラテンアメリカ諸国が同期間に著しい増加を示しているのと対照的である。この期間においては外国銀行の短期資金の引き上げがあったことなどにより、債務に占める政府間ベースの資金の割合が徐々に増加し、1984年には51%に達した。新規の政府間ベースの債務のなかでは西側先進諸国の割合は低下し、少数ではあるが発展途上国の割合が上昇している。

債務に占めるリスケジュール分の割合は、1983年の53%、84年の40%、85年は29%と低下してきている。1982年8月の時点で85年に支払期限のくる中・長期債務は2億2900万ペソに達し、また民間の短期資金のうちロールオーバーされている額は4億6800万ペソに達している。キューバ政府はこれらのリスケジュールを必要としている。(ささき・しげこ/図書資料部)